

科目名	作業療法評価学実習Ⅲ①			授業の種類	実習	講師名		
授業回数	23	回		時間数	45	時間	1	単位
				必修・選択	必修	配当学年 時期	2年	前期
<p>【授業の目的・ねらい】 測定検査方法を学ぶ 身体障害領域での各疾患において疾患特有の測定・検査や機能評価を学ぶ</p>								
<p>【実務者経験】 急性期などの臨床現場を12年間経験し、その後教職の立場に変わるが、一週間に1度関連の急性期病院や介護老人保健施設に赴き、新人や後輩などの育成に尽力を注ぐ。 作業療法士として順心リハビリテーション病院に勤務、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。</p>								
<p>【授業全体の内容の概要】 作業療法における測定検査方法を実践する 疾患特有の測定・検査や機能評価を体験する</p>								
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 疾患の概要と、疾患特有の測定・検査や機能評価を挙げ、説明することができる</p>								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	脳血管障害・頭部外傷の評価（高次脳機能障害の評価を省く）							教科書、資料
2	脳血管障害・頭部外傷の評価（高次脳機能障害の評価を省く）							教科書、資料
3	脊髄損傷の評価							教科書、資料
4	脊髄損傷の評価							教科書、資料
5	上肢の末梢神経損傷の評価							教科書、資料
6	上肢の末梢神経損傷の評価							教科書、資料
7	関節リウマチおよびその類縁疾患の評価							教科書、資料
8	関節リウマチおよびその類縁疾患の評価							教科書、資料
9	摂食・嚥下障害の評価							教科書、資料
10	摂食・嚥下障害の評価							教科書、資料
11	神経系疾患の評価							教科書、資料
12	神経系疾患の評価							教科書、資料
13	内部障害の評価							教科書、資料
14	内部障害の評価							教科書、資料
15	OSCE 1 脈拍と血圧測定①							教科書、資料
定期筆記試験								
<p>【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学 作業療法評価学3版 能登真一 医学書院 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版</p>								
<p>【準備学習・時間外学習】 当日授業の振り返りのため資料や教科書を確認する</p>								
<p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 評価学は筆記試験50点、 OSCEは筆記試験15点、実技試験35点の50点、合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。</p>								